

課題研究「学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望」の進捗状況

研究代表：井下千以子

□2019年度課題研究ラウンドテーブル報告

「ライティングセンターの機能と展望—正課と正課外をつなぐライティング教育を目指して」

2019年度課題研究ラウンドテーブルでは、下記の報告とそれに対する指定討論、全体討論が行われた。

企画者：井下千以子

指定討論者：柴原宜幸、大島弥生

全体討論者：成瀬尚志、関田一彦

報告者

- 1) 井下千以子：趣旨説明、問題の背景と目的
- 2) 佐藤広子：創価大学の事例
- 3) 小林至道：青山学院大学の事例
- 4) 岩崎千晶：開催大学の事例
- 5) 佐渡島紗織：早稲田大学の事例

課題研究ラウンドテーブルでは報告者を課題研究メンバーに限る制約がないため、ライティング教育に関わる先生方に広く発表をお願いし、層の厚い研究を目指した。今大会では、正課と正課外をつなぐライティング教育の中核となるライティングセンターの機能に焦点を当てた。事例報告を依頼したのは、創価大学、青山学院大学、関西大学、早稲田大学の4大学である。

関西大学と早稲田大学のライティングセンターは歴史があること、創価大学と青山学院大学は設立間もないことから、それぞれの立場で、歴史のあるライティングセンターには成果や評価について、これからというライティングセンターには成り立ちや課題などについて話題提供いただいた。

各大学の事例報告からライティングセンターの多様性を確認した上で、ライティングセンターの優れた指導体制、とりわけチューターの育成や、きめ細やかな支援のあり方、活動の評価方法の進展などにより、大学教育において重要な役割を担っていること、さらには正課と正課外教育が連携することによって今後さらなる発展が期待できることを深く学びあう有意義な議論が展開できた。